

## マイクロ計量分析の手法を援用

武田 友加

この度は、名誉ある大平正芳記念賞を賜り、大変光栄に存じます。大平正芳記念賞運営委員会・選定委員会の先生方、財団関係者の皆様、そして、これまで支えて下さった方々に、心よりお礼申し上げます。

受賞作は、社会主義から資本主義への大転換という未曾有の歴史的大事件に直面した移行経済下ロシアの貧困を、家計の貧困動態、都市・農村の貧困、プロ・プア成長という3つの視点を軸として、主に、マイクロ計量分析に基づき明らかにしています。ソ連時代には、貧困の存在の否定というイデオロギー上の問題だけでなく、データの圧倒的不足のため、貧困研究の発展が大きく阻まれていました。しかし、体制転換の中、貧困に関わるデータが公表されるようになり、研究機関によって全国レベルの大規模家計調査が定期的実施されるようにもなりました。このようなデータの構築・整備・開示により、ロシア貧困研究を巡る研究環境は大幅に改善されたといえます。

しかし、その一方で、ロシア国内の研究者によっても指摘されているように、政策立案・提言の上で重要であるにも関わらず、個票データを用いた科学的手法に基づくロシア貧困研究が少ないのが現状でした。そこで、拙著では、この共通認識の下、マイクロ計量分析に基づくロシア貧困研究を志すことになりました。そして、それは、科学的手法、つまり、社会科学における共通言語の一つといえるマイクロ計量分析の手法を援用することによって、ロシア貧困研究を、ロシア一国の地域研究に閉じ込めることなく、他国との比較研究や他分野との境界領域という広い文脈の中に位置づけられるのではないか、と考えたからでもありました。

拙著に込められたこのささやかな試みが成功したかどうかはわかりませんが、この度の受賞は大きな励みであり、今後も、他地域・他領域と繋がりのあるロシア経済研究を目指して、研究に勤しむ所存です。ありがとうございました。

close